

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-------------------|--------------------|----------------------|
| 事業コード 10-01-01 | 事務事業名 障害児童等介助事業 | 所管部課 教育部 教育企画課 |
|-------------------|--------------------|----------------------|

| | | |
|---------------|----------------|--|
| 施策コード 創2-3 | 施策名 学校教育の充実 | 施策目標 一人ひとりが輝き、生きる力を育む活力ある学校づくりをめざします。 |
|---------------|----------------|--|

| | | |
|---------|--|--|
| 事務事業の概要 | 事務事業の目的 | 根拠法令等 |
| | <p>小学校の通常の学級に在籍する障害のある児童へ介助員を配置することで、当該児童が移動等の際の安全を確保し、当該児童の学校における生活の安定を図り、保護者の負担を軽減することを目的とする。</p> | <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | <p>事業内容・実施方法等／補助の概要：補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等 ※該当する予算事業名・節目を明記する</p> <p>対象となる児童は、身体介助が必要な児童や安全配慮が必要な児童で、保護者またはボランティア等による2か月の介助実績が必要となる。身体介助、安全配慮が必要であれば、障害種別は特に問わない。保護者から学校を通じて申請を行い、その後、児童状況等を観察した後、介助員配置決定会議で認定・非認定について決定する。認定となる児童を、状況により3段階のランクに分け、年間100日分・50日分・25日分を上限として介助員の配置を決定している。その後、登録されている者の中から介助員を派遣している。〔財源〕市単独事業〔予算事業名〕10.2.2.7 障害児童等介助事業費</p> | |
| 事業開始時期 | 18年度 | 実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 項目 | 単位 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|----------------------------|----|--------|-------|-------|--------|
| 事業費(A) | | 7,804 | 6,610 | 3,711 | 8,540 |
| 財源内訳 | 千円 | | | | |
| 国庫支出金・都支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 () | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 一般財源 | | 7,804 | 6,610 | 3,711 | 8,540 |
| 所要人員(B) | 人 | 0.3 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 2,450 | 2,424 | 2,424 | 2,450 |
| 臨時職員賃金等(C') | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総コスト(D)=(A)+(C)+(C') | 千円 | 10,254 | 9,034 | 6,135 | 10,990 |
| 単位当たりコスト(E)=(D)/(利用申請受付件数) | 千円 | 183 | 196 | 170 | 0 |

| 活動等指標 | 単位 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|--|-------|------|------|------|------|
| ① 利用申請受付件数 | 実績値 件 | 56 | 46 | 36 | |
| ② 介助員登録数 | 実績値 件 | 90 | 90 | 66 | |
| 《指標の説明・数値変化の理由 など》 | | | | | |
| <p>介助の必要性及び介助員を配置する日数を決定するための活動指標。</p> <p>特別支援学校・特別支援学級を選択する保護者の増加により、実績値が下がっているものと思われる。</p> | | | | | |
| 成果指標 | 単位 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
| 一 次 利用児童数 | 目標値 人 | | | | |
| | 実績値 人 | 44 | 37 | 26 | |
| 二 次 | 目標値 | | | | |
| | 実績値 | | | | |
| 《指標の説明・数値変化の理由 など》 | | | | | |
| <p>介助員の配置が決定され、実際に介助員を利用した児童数。</p> <p>特別支援学校・特別支援学級選択する保護者の増加により、実績値が下がっているものと思われる。</p> | | | | | |

| | | |
|-------|--------------------------------|--|
| 事業環境等 | 市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など) | 保護者の意見として、「保護者の介助実績がなくても介助員を配置して欲しい」「障害種別ごとに審査基準を詳細化して欲しい」「障害を理解している専門家に授業内容を分かりやすく解説して欲しい」といった要望がある。 |
| | 都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など) | <input checked="" type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 平成21年度に行った調査では、介助員の配置は26市中13市が実施しているものの、肢体不自由以外の障害も対象としている市は13市中5市のみであったため、上と判断した。 |
| | 代替・類似サービスの有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 特別支援教育として実施されている指導補助員については、安全確保、保護者負担軽減を目的とした当制度とは異なる事業である。 |

| | | |
|-------------------|-----------------|----------------------|
| 事業コード 10-01-01 | 事務事業名 障害児童等介助事業 | 所管部課 教育部 教育企画課 |
|-------------------|-----------------|----------------------|

| | | |
|---------------|----------------|--|
| 施策コード 創2-3 | 施策名 学校教育の充実 | 施策目標 一人ひとりが輝き、生きる力を育む活力ある学校づくりをめざします。 |
|---------------|----------------|--|

【一次評価】

| 検証項目 | | ランク | 一次評価 | ○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------|-----------------|-----|--|--|
| A | 事業の優先度 (緊急性) | 2 | <input type="checkbox"/> 拡充 | <p>障害のある児童でも、介助員がつくことで通常学級で安定した学校生活をおくることができるようになり、また、保護者の負担の軽減にもつながるため当事業は必要と考える。一部の児童は、NPO等の団体から介助員を配置してもらっているようであるが、ほとんどの児童は当制度のみの利用であるため、市が主体的に実施する必要がある。</p> <p>学校を支援するため、当制度のほか様々な人材支援を行っている。各制度を効率的かつ効果的に運用するため、それぞれの制度の役割を明確にしたうえで、見直し改善に向けた検討を行った。指導補助員は特別支援教育としての指導を行うものであり、安全配慮を目的とした当制度とは趣旨が異なることを確認した。そして、当制度については、現状の制度設計の大幅な見直しは行わず、公正で適切な取り扱いができるよう改善を図ることになった。そこで、平成22年度3学期の新規申請から、より詳細に児童の状況等を把握するためチェックリストを作成し、学校に記入してもらったこと、これまでよりも確かな決定ができるようになった。</p> <p>今後は、当制度と指導補助員の内容及び相違点を学校へ周知していく予定である。</p> |
| | 事業の必要性 | 2 | <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 | |
| | 事業主体の妥当性 | 2 | <input type="checkbox"/> 改善・見直し | |
| B | 直接のサービスの相手方 | 1 | <input type="checkbox"/> 抜本的見直し | |
| | 事業内容等の適切さ | 2 | <input type="checkbox"/> 休止 | |
| | 受益者負担の適切さ | 2 | <input type="checkbox"/> 廃止 | |
| C | 市民ニーズの把握 | 3 | <input type="checkbox"/> 廃止 | |

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【二次評価】

| 検証項目 | | ランク | 二次評価 | ○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------|-----------------|-----|--|--|
| A | 事業の優先度 (緊急性) | 2 | <input type="checkbox"/> 拡充 | <p>本制度は、保護者の負担軽減が目的であり、指導補助員とは内容が異なるということであるが、両制度の違いが明確になっているとは思えない。当面、本制度は見直さないとことだが、本制度を、指導補助員の補完的な制度とするのか、現状のまま異なる制度として運用していくのか、より効果的な制度とするために、今後、十分な検討をされたい。</p> |
| | 事業の必要性 | 2 | <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 | |
| | 事業主体の妥当性 | 2 | <input type="checkbox"/> 改善・見直し | |
| B | 直接のサービスの相手方 | 1 | <input type="checkbox"/> 抜本的見直し | |
| | 事業内容等の適切さ | 2 | <input type="checkbox"/> 休止 | |
| | 受益者負担の適切さ | 2 | <input type="checkbox"/> 廃止 | |
| C | 市民ニーズの把握 | 2 | <input type="checkbox"/> 廃止 | |

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 | <p>本事業については、平成22年に事務改善が図られ、より実態に沿った事業として実施されている。今後も学校現場との連携を図り、児童や保護者の状況を踏まえ、適切に運用されたい。</p> <p>なお、指導補助員との関係性については、二次評価の指摘を踏まえ、相違点の整理・周知に努められたい。</p> |